

幼稚園保姆の家庭訪問の必要

甲 賀 藤 子

幼稚園問題か、保育の事に就いて、何か話せよとの事ですから、私は、幼稚園保育に直接關係のある、また、最大切だと思ふ家庭訪問の事を少し申して見たいと存じます。私の知つて居ります或る幼稚園の保姆の中には、家庭訪問は、害多くして益が少なくいと申され、また、其弊害を擧げて、忙しい母親達の邪魔をするとか、いろ／＼響應にあづかり過ぎるとか、また、家庭訪問の結果から、子供に對して不公平な行爲を表はすやうになるとか、申されますが、それは、とんでもない事であり、若し保姆たるべき人が、人の迷惑になるやうな訪問をしたたり、御馳走に釣られたり、または、卑しい感情から、不公平な心を起すやうな事があれば、それは、家庭訪問が悪るいのではなくて、其人が

わるいのです。今日は訪問して、ゆつくりお話しやうと思つて行つても、先方の様子を見た上で、庭からそのまゝ歸つてくる事もあり、また、一寸様子がわからねば、來意を告げて、時間の都合を聞くとか、また、あまり長居はせぬやうにして、無駄話をやめて、なるだけ要點のみを聞き、また話すやうにつとめるとか、是等は、誰でも訪問者の常に心得て居るべき事柄であらうと存じます。私共は、家庭訪問をして、話して居ります間に、其母親から、其子供の教育の上に、非常に助けるなる事を澤山に聞き、大層益せらるゝのが常で御座います。また、此方からも、いさゝか參考になることを申残して歸る事が出来ます。私共は、幼稚園に出て居る間だけ、子供の事を思ふて居るのではありませぬ。ひまさへあれば、いつも、「あの子供の癖を」「此の子供の性質を」と一人／＼について考へて居るのですが、幼稚園で子供に接する時間は、僅に三四時間の事で、

其他は、凡べて家庭にあるのですから、どうして
 も、家庭の人々に私共の考へて居ること、または、
 説いて居る方法等を知つてもらひ、また、家庭で
 説いて居らるゝ方法等も聞きまして、家庭と幼稚
 園とが一致いたすやうに計らねばならぬと存じま
 す。勿論、幼稚園で致します通りに、家庭では出
 来ないでせうけれど、少なくとも幼稚園の主義、
 方針を知つてもらはなければなりません。或る人
 は「とても、此の大勢の子供の家庭を訪問する事
 は出来ない」と申されますが、それも御もつとも
 です。私立幼稚園などで、比較の子供の数が少な
 くて、保姆の数が多し所などでは、格別六ヶ敷い
 事ではありませぬが、三十名も、四十名も一人
 預つて居らるゝ力などは、一々其家を訪問するの
 は、容易い事では御座いませぬ。でせうが、若し
 眞に其必要を感じて居られたならば、随分骨の折
 れる事とせうが、つとめて、していたゞきたいと
 存じます。或る方々は、多くの子供を預けられて、

むつかしい中から、此の家庭訪問をつとめて居ら
 るゝと云ふことを聞きまして、誠に喜んで居りま
 す。私は、只今三ツの幼稚園に關係して居ります
 から、實を申せば、それ等を悉く訪問し盡しては
 居りませぬが、なるだけ盡したいと、自らもつと
 め、また、私の助手にも絶えず獎勵いたして居り
 ます。助手の中には確かに其必要を認めて、怠ら
 ずつとめて居て呉れる者も御座います。私は、こ
 れまで、種々様々な子供を預りましたが、何れの
 場合にも、家庭訪問で悪い結果を見たことはま
 だ一度も御座いませぬ。たゞに我が國に於てのみ
 で御座いませぬ。白人でも、黒人でも、支那人で
 も、布哇の土人でも、スバニツシユでも、ポルトリ
 コでも皆同じ事です。自分の最愛の子供を預けて
 居る先生と思へば、子供に關係あることは秘密に
 屬するやうな事までもうちあけて話し、吾が子の
 將來に幸多かれと願ふ母の慈愛を表はされる事は
 常に御座います。實際他から見ても、わからぬや

うな込み入つた事情の許にある氣の氣な幼兒も數あるのです。こゝ内氣なやうな、いちぢたやうな子供の家庭を訪ねて見ますと、家にこたゝがあつて、どうしても、のんびり育つ事が出来ぬやうな境遇に居たり、また、母親が亡くなられたり、或は、母親が居られても、その温き手に育てられる事が出来ないで、唯義務的に、冷かに取り扱はれて居るといふ様な、氣の毒な境遇にある事も御座います。その様な子供は、此方からも、そのやうに注意して、談話の中にも、其子供の心にいたいたしい感じを與へないやうに盡してやらなければなりません。これも家庭の事情がよくわかりませぬ間はどうする事も出来ませぬ。また、中には、折角幸福な家庭に生れて居ながら、其周囲の人々が、教育の方法を誤つて居らるゝ爲めに、全く害せられて居るのを發見することも御座ります。また、いゝ子供だけだと、どうも神經過敏のやうだからと思つて、家庭でよく聞きますと、果して、

家庭であまり細く氣をつけ過ぎて居られて、それが却て害をなして居ることが御座います。また、我が儘なやうな子供の家を訪ねて見ますと、家庭では勿論我儘にする積りでは居られない、唯可愛がつて居らるゝのですが、それが、知らずゝの中に、我儘になる様に導かれて、遂に、どうする事も出来なくなつてしまつたやうな事も見出します。其他幼稚園で觀察したとは違つた有様を、家庭で見、家庭で思つて居らるゝとは異つた有様を、幼稚園で表はして居ると云ふやうな場合も屢御座います。是等は、保母たる者が、親しく家庭についてしらすべ、家庭の人、殊に母親と、保母とが、互に胸襟を開いて語りあつて、互の主義、方針を解し、その最善と信する方向を一にして、子供の最善を發達を計らねばならぬと存じます。時に、或は、その取る方法は相反して居るやうに見える事がありましても、此目的は相一致しなければなりません。

幼稚園では、子供が大勢集つて居りますから、私共は、「此の一團體」をと云ふ事を常に念頭において居ります。けれど、また、此の團體をつくつて居る各個人を、最大切に見て居るので御座います、一人々々に對する取扱ひの用心は、教師の方にあるので御座ります。同一の遊びや、仕事を致して居りましても、決して、同じ型に入れる事は出来ませぬ。また、同じ型に入れる筈のものでは御座りませぬ。

教育の理想は、「全き人を養成する」といふにあるのだらうと存じますが、元より私共の如き、至つて不完全なものが、とても、其理想を實現させることは、不可能なことですけれど、どうかして、其理想に近づき度いと願ひつゝ、毎日つとめて居るので御座います。

各個人を出來るだけよく發達させやうとつとめますには、是非とも、各個人をよく知るといふ事が大切なので御座ります。此頃、吾が國でも、個性

研究といふ聲が高くなつてまゐりましたのは結構なこと、存じて居ります。子供一人々々をよく研究して、その各個人の必要に應じて、或は、その不足を補ひ、或は、まだ覺醒して居ない善を呼び起すとか、また如何はしいと思ふ様な點は、自然に枯れてしまふやうにつとめなければならぬので御座います。さらば、どうして、其子供一人一人をよく知る事が出來ませうか、私共は、毎日子供と一緒に室内、或は室外で遊んで居ります間に、子供等の一人々々の特性を見ることが出來ます。

殊に、保姆の指導なしに、(唯保姆は監督だけして)遊んで居る時、即ち、子供が全く自由に餘念なく遊んで居る時には、子供が己れ自身を、有の儘に發表して居りますから、最よくその個性を知ることが出來ます。幼稚園の保姆や、其他、兒童研究をしたいといふ人は、此の折りを見失つてはならないと存じますが、まだ、之れだけでは十分といふ事は出來ませぬ。子供は、幼稚園にばかり居る

のではありませぬから、幼稚園外に於ける子供、即ち、家庭に於ける子供を知らねばなりません。子供が自由に遊んで、己れ自身をその儘に發表して居る時に、其子供を知ると同時に、また、その境遇や、その受けて居る感化を大略察することが出来ませぬけれど、それだけでは判然しない事が澤山あるのです。幼稚園で預かつて居る僅の時間中に研究しただけでは、決して十分といふ事が出来ませぬ。どうしても家庭と密接の關係をつくり、家庭内に於ける子供の有様をもよく知つて、家庭と幼稚園とが一致協力して、其子供の善き發達を計らねばなりません。子供の教育は、家庭が主なので、幼稚園は、唯その缺を補ふやうなものですから、どうしても家庭との深い關係を絶つ事は出来ませぬ。(文責記者)

○初雪や子供の持てあるくほど (千代)
○女の童と男の童と遊ぶ火燵哉 (子規)

小兒の傳染病に就いて(一)

醫學士 唐澤 光徳

一四

今日には幼稚園時代、即ち小兒の四五歳頃から七八歳位の間に一番多く來る所の傳染病の御話を申し上げることに致しました。

此の會は醫學には専門の會でありませぬから、症候其の他に就て餘り精しいことは略しまして、幼稚園に來て居つて病氣が始まる前に注意すべきこととの、又癒つて幼稚園に來た時分に、其の取扱を爲さる保護者として氣を付けべきこと等に就て一寸御話しようと思ひます。

一體極端に申しますと云ふと、幼稚園と云ふものは一種の病氣の間屋のやうな形がある。少し亂暴な言ひ方でございますが、大に注意を要することでありませぬ。全體醫者の方で非常に嚴重にすれば、病氣が全く治り切らない中に子供を幼稚園に寄越すと云ふやうなこともありませぬし、又幼稚園の